
2008 年度 事業報告書

特定非営利活動法人
アントレプレナーシ
ップ開発センター

〒604-0866
京都市中京区西方寺町 160-2 船越メデ
ィカルビル 3F
TEL:075-468-8907
FAX:075-468-8908

アントレプレナーシップ開発センターが目指すもの：

アントレプレナーシップ溢れる人材育成と社会の実現

目次

| | |
|-------------------|---|
| 2008年度 活動報告 | 3 |
| 事業概要 | 3 |
| 活動内容 | 4 |

事業概要

2008 年度は、設立趣旨に則り、継続的な活動を行いながら、独自事業の模索と、他の団体との連携の強化に努めた一年となった。以下、本年度実施した活動一覧である。

(1) 特定非営利活動に係る事業

| 事業名 | 事業内容 | 実施日時 | 実施場所 | 受益対象者の範囲および人数 |
|----------------------------------|--|--------------------------------|---------------------------|-----------------|
| 1. アントレプレナーシップ教育推進事業 | | | | |
| アントレ教育の学校への普及 | 実践のコンサルティングや教材提供 | 随時 | センター又は各学校現場 | 約 2,000 名 |
| Global Enterprise Challenge 2008 | 青少年の科学技術の関心を高めるために課題解決に挑戦する国際イベント | 5/31(国内大会) & 6/22-23(国際大会) | 国内大会:ひとまち交流館/国際大会:オーストラリア | 国際参加者全員で約 200 名 |
| トレードフェア 2008 京都 | 企業経営教育プログラム参加生徒の発表会の企画・実施 | 11 月 22-23 日 | 京都大学 | 約 700 名 |
| リーダー塾 | 自主講座 | 11 月に 5 回 | 誓願寺またはセンター | 10 人 |
| 産官学交流「京都 EDOS」会 | 人づくり・まちづくりについて気軽に研究する交流会。 | 3 ヶ月に一度開催: 3/28、7/4、10/3、12/12 | ひと・まち交流館/京都府 NPO センター会議室 | 80 名 |
| メールマガジンの発行 | センター活動の報告・案内 | 毎月 | メール | 毎回約 3000 人 |
| HP による広報 | HP などに活動状況を随時報告 | 随時 | HP | 不特定多数 |
| 2. 起業家育成講座・カリキュラム開発 | | | | |
| 文部科学省委託事業「社会人学び直しニーズ対応教育推進事業」 | 同志社大学大学院総合政策科学研究科と「ソーシャル・イノベーション型再チャレンジ支援教育プログラム」を共同実施 | 9 月～3 月末 | 同志社大学 | 受講生 10 名 |
| 起業家育成講座 | 神戸商工会議所の起業家教育講座の企画・運営の受託業務 | 6 月～7 月 | 神戸市産業振興センター | 受講生 42 名 |
| 研究補助事業 | 京都教育大学研究協力 | 4 月～12 月 | 京都教育大学 | 約 400 名 |
| 3. 研修・コーディネイト事業(受託事業) | | | | |
| 指導者研修・講演等 | 起業家教育普及のための指導者研修会 | 随時 | 各学校にて | 約 1000 名 |
| 府立高校生の体験活動支援事業 | 高校生の体験活動のための受け入れ企業開拓 | 9 月～3 月末 | 受入企業にて | 約 45 名 |
| 海外視察・視察団の京都企業訪問アレンジ | 海外のキャリア教育機関の視察のコーディネイトや調査業務 | 随時 | 当センター | 約 35 名 |
| 4. その他講師・委員など | | | | |
| 公的機関の委員など | 京都府の委員会出席 | 随時 | 各主催者の会場 | |
| 大学の講義など | 同志社女子大学等 | 随時 | 大学の講義室 | 100 名 |

*ボランティアスタッフ含む

(2) その他事業なし

活動内容

■ □アントレプレナー教育普及事業

●Global Enterprise Challenge (グローバルエンタープライズチャレンジ) 2009

本イベントは、当センターがスコットランドの行政機関であるキャリアスコットランド(Careers Scotland)との共催で、18歳以下の青少年対象に実施している活動です。日本で実施する国内予選大会と、各国の代表チームが競い合う国際大会とで構成されており、8名以下の高校生で編成されたチームが、1名の起業家のファシリテーターのサポート受け、その場に出された課題解決に挑戦します。課題は、環境や福祉などの既存の社会的問題に関わるもので、参加者は、科学技術などの知識を活用して解決策を事業プランとしてまとめて発表。提案内容は、審査員により、創造性・革新性・実現性・市場性・コミュニケーション能力などの点を総合的に評価され、優秀チームが決定されます。今年、5月24日に国内予選、6月22日と23日に国際大会が開催予定です。

GEC2009の詳細：<http://www.entreplanet.org/GEC2009/index.html>

<国内予選> 平成20年5月31日(日) ひと・まち交流館京都

課題：「持続可能な社会づくりのため、エネルギー問題を解決する画期的な製品を企画・提案せよ！」

結果：6校7チームが参加し、起業家の皆様の支援のもと課題解決に取り組みました。審査員は、一般企業や大学教員、商工会議所などの方々。審査の結果、「海流発電～のぼるくん～」を提案した京都府立田辺高等学校チームが最優秀賞を獲得し、日本代表として選ばれました。同志社国際高等学校のチームは「Eco-charger」で優秀賞を授与されました。



チームで議論



優勝した田辺高校の生徒たち



真剣なプレゼンに審査も白熱

<国際大会> 平成20年6月22日(日) & 23日(月) オーストラリア(シドニー)

課題：「水資源が世界的に減少する中、増え続ける水への需要を抑える革新的な製品、サービス、または規格の実用的なモデルを提案せよ！」

結果：今年初めて英国以外の場所シドニーで開催され、世界各国から14カ国の代表チームが参加しました。参加チームは24時間以内にビジネスプラン・パワーポイントのプレゼン資料、試作品の製作、3分間のプレゼンテーションを行いました。日本代表である京都府立田辺高等学校チームは現地参加し、英語で挑戦！惜しくも入賞を果たすことはできませんでしたが、他国チームのアイデアやプレゼンテーションに刺激を受け、生徒たちだけでなく引率された先生にとっても良い経験になったようです。



化学水精製機を考案しました



英語でのプレゼンに少し緊張



会場もみな真剣です

●第8回 バーチャル・カンパニー トレードフェア 2008 京都～若者が担う持続可能な地域づくり～

日 時：平成 20 年 11 月 23 日（日）10:00～17:30

場 所：京都大学百周年時計台記念館

主 催：トレードフェア実行委員会

内 容：本イベントは、主として社会的な課題解決をテーマに、地域と連携して、新しい製品やサービスを提案、それを扱う仮想企業（バーチャル・カンパニー）を設立・運営する小学生～大学生の成果発表会です。8 回目を迎える今年度のトレードフェアは、昨年度に続き、京都府の地域力再生プロジェクトとして助成をいただき、京都を中心に遠くは北海道から 23 団体、39 チームが参加し、日頃の学習成果を展示販売、プレゼンテーションを通じ、互いに競い合いました。また、今年は、指導者向けの教育実践の紹介や小・中向けのワークショップにくわえ、世界的なアントレプレナーシップの推進運動である Global Entrepreneurship Week にも参画、(財) 本田財団、国際機関 APO (アジア生産性機構)、Entrepreneur of the Year Institute JAPAN など、他の団体との連携で、交流会や若手起業家セッションを行い、アジアからの起業家も交えて、親交を深めることができました。今後の日本でのアントレプレナーシップの推進に、大きな連携の輪が築けたことを感謝しております。

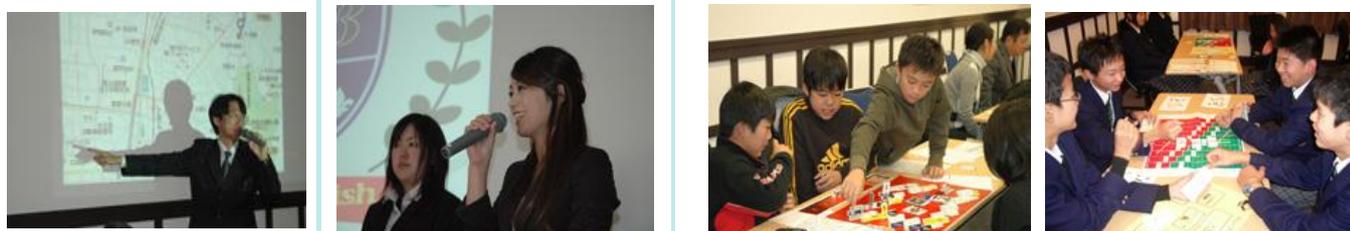
参加者数 約 700 名 (参加校生徒・指導者...約 350 名、一般来場者...約 250 名、関係者...約 100 名)



●プレゼンテーションブース展示・販売●



★セミナー：ワークショップ



★若手起業家セッション：「アントレプレナーシップを育てるには」★

主催：財団法人本田財団 協力：Entrepreneur of the Year Institute JAPAN

講演者：佐野恵一（株式会社社旅のお手伝い楽々 代表取締役）

村井杏侑美（第6回京都学生祭典 実行委員長）

ジョナス・リベラ ゴンザレス(Organica Nutraceuticals Inc 共同経営者)

コーディネーター：齋藤ウィリアム（株式会社インテカーCEO/独立行政法人産業技術総合研究所ベンチャー開発センタースタートアップアドバイザー）



トレードフェア 2008 詳細報告：<http://www.entreplanet.org/tradefair2008/repo.html>

●特許庁知的創造サイクル啓発事業：～地域に発信！みんなで考える宇治のお土産～

日 時：平成 20 年 8 月 6・7・8 日（3 日間）

場 所：宇治橋商店街+京都文教大学サテライトオフィス+宇治市立菟道第二小学校

内 容：3 日間かけて地元宇治の小学生が宇治の新しいお土産を考える活動を行いました。初日は当センターで指導者用の研修を実施。その後、宇治市立菟道第二小学校の 6 年生が宇治橋商店街で市場調査。どんなものが売れているか調べたあと、翌日新商品の企画案を作成。お店の人に企画案を見せてアドバイスをもらったあと改良を加え、最終日に試作品をつくって HP で紹介。参加された糸井教諭のもと 9 月からはクラス全員で取り組み、11 月にトレードフェアで発表、3 月には保護者や商店街でサテライトオフィスをもつ京都文教大学の協力も得て提案商品の一つ「なまっ茶キャラメル」を実際につくって販売。数分で完売。その後、卒業生と保護者たちが自主的に 4 月にも販売活動を実施予定。さらに、本活動が発展し、次年度は、保護者、京都文教大学、商店街などの連携で、糸井先生が担当する宇治市立菟道第二小学校の 4 年生全クラスで、スタンプラリーという地図づくりに挑戦することになった。



商店街でリサーチ



試作品



HP

●未来を担うビジネスリーダーを目指して～君の創造力を試せ：若者が担う持続可能な地域づくり～

日 時：平成 20 年 11 月 2～23 日（全 6 回）

場 所：誓願寺+アントレプレナーシップ開発センター

協 力：京都商工会議所、寺町京極商店街振興組合

内 容：本活動は、地域活性化の担い手となるビジネス分野のリーダー育成を目的とし、小学生 5 年から中学 1 年までの生徒が参加。京都の中心街にある誓願寺を拠点に、新京極や寺町京極、三条商店街などで、外国人に人気のお土産について店舗調査やインタビュー調査を実施。売れ筋商品やそれが何故売れているかなどを考えたりして、自分たちで新しい商品の提案を行い、実際に商品をつくって、売上目標をたてて価格を決定。11 月 23 日のトレードフェアで販売。反省会で収支決算を行い、収益を分け合いました。参加生徒の保護者からは、生き生きと活動に参加しており、かつ、自分で自発的に行動するようになったと高い評価を得ました。次年度も継続予定です。



アイデアを出します



商店街でリサーチ



試作品づくり



試作品完成



トレードフェアで発表



ブースで展示

●講演会等

- ◇ 平成 20 年 6 月 4 日 立命館大学アントレプレナーシップコースにて講演
- ◇ 平成 21 年 2 月 1 日 みんなのチカラでつろう！市民発ソーシャルファンド・フォーラム「社会を変えるために、今、必要なものとは」にてパネラー参加

■産官学交流「京都 EDOS (えーどす会)」

教育の在り方に問題意識を持つ教員・学生・社会人が産官学の枠を飛び越えて集い、人づくり・まちづくりに積極的にアントレプレナーシップを発揮して関っていくための研究・交流会を定期的開催しています。

●第 18 回：京都 EDOS 会：「サービス業での創造的知識労働者の育成について」

日 時：平成 20 年 7 月 4 日(金)18:30-20:30

講 師：原 良憲 氏 (京都大学経営管理大学院 教授)

場 所：府庁 NPO パートナシップセンター会議室

内 容：「創造的知識労働者」(サービス・クリエイティブクラス)とは、ITC の成熟化にともなう高度サービス社会・経済において、サービス価値向上を牽引する人材を指しています。当日はサービスイノベーション分野の成功事例を通じて、「創造的知識労働者」をめぐる今後の課題や、人材育成に必要とされる考



え方を具体的に紹介して下さいました。「これからの現場に必要な考え方は、『消費者視点』(サービスリテラシー)をモットーに、人的リソースの強化を図ることだ」と原先生。付加価値の高いサービスを提供できる専門的人材育成には、サービスや「ひと」の価値創造的側面に焦点をあてたフレームワークの確立などが要請されているというお話しを受けて、質疑応答のお時間はご意見・ご指摘が飛び交う活発な場となりました。



●第 19 回：京都 EDOS 会：「古きを生かし新しきを創る」

日 時：平成 20 年 10 月 3 日(金)18:30-20:30

講 師：住井 啓子 (京都・老舗団扇「小丸屋 住井」十代目)

場 所：府庁 NPO パートナシップセンター会議室

内 容：住井氏からは、300 年以上続く「小丸屋 住井」の 10 代にわたる歩み、住井氏が 10 代目を継承されてから始められた深草団扇の復活や店舗拡張のときのお話をうかがいました。特に、住井氏が大きな決断をされる際の、人の縁の不思議さや、お客さんがお見えになったときに、「よーきてくれやはった」と団扇で仰いで迎えた昔の風景には、皆さん感じられることがあったようです。



●第 20 回：京都 EDOS 会：「社会貢献を企業成長の源泉に」

日 時：平成 20 年 12 月 12 日(金)18:30-20:30

講 師：植木 力 (株式会社カスタネット 代表取締役社長)

場 所：株式会社カスタネット社会貢献室「カスタくんの町家」

内 容：平成 20 年最後の EDOS 会は、株式会社カスタネットさんと共催で実施しました。植木社長からは、高校生のときの生徒会長としてのご活躍や自衛隊で働かれていた時のお話、社内ベンチャーに応募された創業時のご苦労やカンボジア支援のきっかけなどについてお伺いしました。

企業の社会的責任については、参加者からも活発な意見がありました。



■ □ 起業家育成講座・カリキュラム開発

●平成 20 年度文部科学省：社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業『ソーシャル・イノベーション型再チャレンジ支援教育プログラム』

昨年度に引き続き、同志社大学総合政策研究科と共同でプログラム開発と講座運営を行いました。受講生 10 名のうち、6 名が総合政策研究科のソーシャル・イノベーションコースに進学されました。

HP：<http://sosei-si.doshisha.ac.jp/manabi/>

●神戸商工会議所「KCCI 創業塾（第 10 期）～起業家カレッジ」

神戸商工会議所では、平成 20 年 6 月 21 日～7 月 26 日 計 6 回、会社運営に必要な基礎知識を学びながら、それをグループで実践。ビジネスプラン作成だけに終わらない参加型起業講座を行っていました。講座を通じて、参加者の方もネットワークを広げ、その後の仕事につなげておられます。

2009 年は 6 月 20 日から開講予定で、昨年度に引き続き、当センターで「会社をつくろう！」のグループワークの部分を受託しています。

●京都教育大学「起業家精神に富んだ勤労観・職業観を職業体験を通じて中学生に育むための教材開発」

高乗教授の科学研究費の研究で、中学二年生が職場体験の前後学習に利用した教材活用の評価を行いました。一週間の職場体験を行うと、「働くこと」について考えていたより大変だったという思いや収入の多さよりも「職場の雰囲気」を大切に考えるようになるなどの傾向が見られました。教材効果については、どの教科でも同様、指導する教員の利用方法や指導力によって差が見られました。

■ □ 研修・コーディネート事業

●大阪商工会議所人材育成委員会「海外キャリア教育視察」コーディネート

大阪商工会議所人材育成委員会では、大阪府や大阪市の教育委員会と連携しキャリア教育支援を積極的に行っています。当センターでは、昨年度のフィンランド・スコットランドの視察に引き続き、委員会の米国西海岸でのキャリア教育の視察先のコーディネートを行いました。視察団のコメントとしては、キャリア教育を充実させるには、教育界と産業界が連携し、地域社会が一体となって取り組む重要性を改めて実感したとのことでした。京都でも、今後、学校が地域に開かれた存在になるよう、学校から産業界への要望だけでなく、産業界からの積極的な働きかけや、教育委員会も含め、互いの理解を深める場を設けていく必要があります。

●京都府職業教育充実事業「府立高校生の体験活動」

京都府教育委員会が初めて NPO 法人と連携して実施する事業とのことで、当センターで、高校生の体験活動に協力してくれる企業を開拓。多くの方のご理解とご協力のものとに 10 企業 12 種類の体験活動に 42 名の高校生が参加することができました。

1) インターンシップ (3 日間) : 企業現場で実際に簡単な仕事に従事する (2 カ所 3 名)

2) ジョブシャドウイング (1 日間) : 社員と一日行動を共にする (3 カ所 8 名)

3) 企業訪問 (半日間) : グループで企業を訪問し、社員から話を聞いたり、施設見学を行う (7 カ所 31 名)

4) 受け入れ企業

- ・ 大日本スクリーン製造株式会社
- ・ 株式会社京都ホテル
- ・ 佛教大学
- ・ 京都大学
- ・ 株式会社堀場製作所
- ・ 特定非営利活動法人きょうと NPO センター
- ・ 有限会社アイブルーム



- ・ 株式会社カスタネット
- ・ 株式会社京都リビング新聞社
- ・ ソフトコム株式会社

●松本市教育委員会教員研修

松本市では青少年課勤労青少年ホームが主体となってキャリア教育を推進しています。担当者の方は、いろいろな教材を研究した結果、当センターの Web 教材「キッズアントレ」が一番適しているとのことで、ここ数年、教員研修をあわせて教材を利用してくださっています。本年度も小学校 2 校、中学校 1 校のモデル校で 11 クラス、約 400 人が参加しました。

●国立明石工業高等専門学校

明石高専では「ソーシャル・マーケットを利用した学生育成」事業で文科省の学生支援 GP に採択され、当センターでは、学生リーダー育成と教員研修を受託しました。明石高専の学生は、グローバル・エンタプライズ・チャレンジやバーチャル・カンパニートレードフェアにも参加され、高専でのアントレプレナーシップ教育の普及に力を入れておられます。

●三鷹ネットワーク大学推進機構・三鷹市教育委員会連携事業

三鷹市教育委員会では、NPO 法人三鷹ネットワーク大学と連携して、三鷹市立の全小中学校においてアントレプレナーシップ教育の導入を 3 ヶ年計画で実施することになりました。三鷹ではすでに小・中一貫のコミュニティスクールを基盤にキャリア教育を推進しており、今回も、アントレプレナーシップ教育を行うにあたり、教員だけでなく、保護者・学校評議員・教育コーディネイター向けの研修を全学校で開催。当センターでは、ワークショップ形式で 10 回の研修を実施しました。アントレプレナーシップ教育の学校での実践には、特に企業人の方々の多い地域のサポーターである評議員やコーディネイターが、熱心に賛同されていました。

●カザフスタン研究者視察団：京都ナノテク企業訪問コーディネイト

カザフスタンの国際 Bolashak 奨学金を受けた大学の研究視察団が、京都のナノテク企業を訪問するにあたり、京都環境ナノクラスター本部事業統括 市原様のご支援のもと、訪問先のコーディネイトをお手伝いしました。福田金属箔粉株式会社、大日本スクリーン製造株式会社、株式会社堀場製作所、株式会社島津製作所、京都環境ナノテククラスター本部、京大桂ベンチャープラザ&イノベーションプラザ京都などが訪問を受け入れてくださり、ロシア語の通訳の方のご苦勞はありましたが、最先端の技術に触れ、充実した二日間を過ごし、帰国されました。



●平成 20 年度名古屋大学「機械産業分野における組み込みソフトウェアの開発システム及び開発人材の育成システムに関する調査」

組み込みソフトウェアの人材育成プログラムを持っている米国の大学や研究機関などの調査委託を請け負いました。

■ □その他:支援校の取り組み

バーチャル・カンパニーの参加校が、どんどん地域の人たちとの連携を広げています！

◎同志社女子大学のバーチャル・カンパニー：支援企業2社とのコラボレーションが商品化

バーチャル・カンパニープログラムの参加校である同志社同志社女子大学情報メディア学科eコマース研究（関口英里准教授担当）のチームが支援企業の株式会社岩田良と共同開発した文具「携帯型クリップケース」が昨年度の開発商品[携帯電話型ミラーVIVID ミラー]に続き、近日発売される予定です。また、楽天市場の出店店舗「きもの京小町」と、着物の福袋を共同提案。売上利益をカンボジアの学校建設に寄付しました。 <http://event.rakuten.co.jp/area/kyoto/collaboration/>



◎前橋国際大学のバーチャル・カンパニー『繭美蚕』が商標登録

トレードフェアで例年高い評価を受けているバーチャル・カンパニープログラムの参加チーム『繭美蚕』が、支援企業の門倉メリヤス株式会社（前橋市日吉町）と考案した『シルクウォッチバンド』を2008年3月1日より直販店「ヴィオレッタ」（前橋市日吉町）にて販売開始。2009年2月には『繭美蚕』の商標が登録されました。

◎京都市立伏見工業高等学校のバーチャル・カンパニー『伏見〜る』のアイデアが商品化

バーチャル・カンパニー仮想企業「伏見〜る商店」の発案アイデア「伏見〜る人形」に続いて、「伏見〜るかるた」が商品化され、稲荷繁栄会の協力によりJR稲荷駅前本町通りにて販売されています。



◎宇治市立菟道第二小学校のバーチャル・カンパニーのアイデアメニューを販売

今年初めてバーチャル・カンパニープログラムに参加した宇治市立菟道第二小学校の6年生の考案した「なまっ茶キャラメル」が宇治橋通商店街で3月14日販売され、完売したのを受け、再度、4月26日に再度販売されます。菟道第二小学校では、糸井教諭が中心となって、夏休みの研修会に参加、9月から6年生でアントレプレナーシップ教育を実践されました。21年度からは、20年度の取り組みで協力を得た商店街、保護者、京都文教大学などと連携して4年生全員でマップ

づくりに参加されます。

◎バーチャル・カンパニー参加校がキャリア教育優良文部科学大臣賞受賞

バーチャル・カンパニープログラムに参加された京都市立福西小学校、三鷹市立第四小学校、尾道市立原田中学校と京都府立京都すばる高等学校が平成20年度キャリア教育優良文部科学大臣表を授与されました。この賞には、バーチャル・カンパニーだけでなく当センターが研修などの形で関わった学校が多く受賞されています。H19年度京都市立修学院中学校、津市立一身田中学校、京都府立田辺高等学校、H18年度京都教育大学付属京都小・中学校、京都市立伏見中学校、神戸市立兵庫商業高等学校など。

◎バーチャル・カンパニー参加校：3校がマイタウンマップ・コンクール第15回：実行委員会奨励賞

バーチャル・カンパニー参加校の京都市立伏見工業高校、長野県立塩尻志学館高等学校、共愛学園前橋国際大学の仮想企業HPがマイタウンマップ・コンクール第15回：実行委員会奨励賞を受賞しました。

■□2008年度プレスリリース

当センターが支援している学校の取組みが新聞で紹介されました。記事の内容は、当センターHPの下記のページからご覧下さい。 <http://www.entreplanet.org/frames/Fpress2.html>

- ・ 「携帯電話型コンパクト鏡 ～同女大生、企業と共同開発～」(2008年5月29日 京都新聞)
- ・ 「おしゃれも“携帯”で」(平成20年5月29日 読売新聞)
- ・ 「起業家精神で社会の課題解決 ～高校生アイデア競う～ 代表に田辺高」(2008年6月1日 京都新聞)
- ・ 「奇抜なアイデアで田辺高 Vグローバル・エンタープライズ・チャレンジ2008国内予選」(2008年6月4日 毎日新聞)
- ・ 「チームジャパンとしてシドニーへ 府立田辺高校の5人」(2008年6月6日 洛南タイムズ)
- ・ 「田辺高生「まさか」の優勝 科学技術で課題解決競う大会」(2008年6月18日 朝日新聞)
- ・ 「前橋国際大学 ～産学連携でカップ麺～」(2008年7月10日 ぐんま経済新聞)
- ・ 「前橋国際大学 ～学生アイデア<伊勢崎焼うどん>～」(2008年7月17日 読売新聞)
- ・ 「宇治の新しい土産考えよう ～商店街を巡り店員から取材～」(2008年8月7日 京都新聞)
- ・ 「前橋国際大学 ～絹の時計ベルト かぶれサヨナラ～」(2008年9月20日朝日新聞)
- ・ 「未来のビジネス担う子供募集」(芸性20年10月17日 京都新聞)
- ・ 「仮想企業実践見本市開催 ～小学生から大学生まで対象に～」(2008年11月3日全私学新聞)
- ・ 「小中学生が京都みやげ企画～しおりやカルタアイデア商品～」(2008年11月6日 朝日小学生新聞)
- ・ 「なまっ茶キャラメル宇治新名物に 菟道第二小児童が考案」(2009年3月6日 京都新聞)